

# 医療安全トピックス TOPICS

Vol. 174

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部 副部長

## 第78・79回報告書の分析テーマ 「部署・病棟の定数配置薬に関連した事例」について

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療事故情報収集等事業を運営し、医療安全に資する情報や報告書を作成・公表しています。今号では、第78・79回の報告書の内容について紹介します。

### ●定数配置薬について

医師の不在時に患者の不眠や発熱などが起きた場合、看護師は、あらかじめ医師が出している必要時指示に従い、患者の状態に応じて病棟・部署の定数配置薬を使用することがあります。定数配置薬は、医師の処方オーダーや薬剤部からの払い出しを待たずに、必要時指示を基に、薬剤を迅速に投与できるメリットがあります。一方で、必要時指示は、オーダーリングシステムのアラートの仕組みがなく、また、薬剤師の処方監査が入らないため、薬剤の指示内容が患者に適切でない場合でも、そのまま投与される可能性があります。

医療事故情報収集等事業(以下：本事業)においても、定数配置薬を使用する際、アレルギーのある薬剤を指示していた事例や、薬剤を取り違えた事例などが報告されています。そこで、専門分析班を立ち上げて検討を行いました。

### ●部署・病棟の定数配置薬に関連した事例

2020年1月～2024年6月に報告された事例のうち、部署・病棟の定数配置薬の指示～準備の段階または管理の段階において、何らかの間違いが発生した事

例は、医療事故情報46件、ヒヤリ・ハット事例121件でした。第78回<sup>★1</sup>・第79回<sup>★2</sup>の報告書では、それぞれの、「発生場所」「当事者職種と職種経験年数」「報告された薬剤の種類」などの事例の概要を示しています。

また、薬剤の指示～準備の段階で発生した医療事故情報46件と、ヒヤリ・ハット事例93件の事例を分類したところ、最も多かったのが「薬剤取り違い」で、次いで「薬剤量間違い」「アレルギー・禁忌」の順でした(図表1)。

### ●アレルギー・禁忌に関連した事例

第78回報告書では、アレルギーに関連した事例と禁忌・注意すべき薬剤に関連した事例に分けて分析を行いました。ここでは、アレルギーに関連した事

【図表1】事例の分類  
(薬剤の指示～準備の段階で発生した事例)

| 事例の分類     | 医療事故情報 | ヒヤリ・ハット事例 | 合計 |
|-----------|--------|-----------|----|
| 薬剤取り違い    | 22     | 37        | 59 |
| 薬剤量違い     | 8      | 12        | 20 |
| アレルギー・禁忌  | 11     | 7         | 18 |
| 規格・剤形間違い  | 1      | 15        | 16 |
| 期限切れ薬剤の使用 | 1      | 5         | 6  |

(第79回報告書, p.25, 図表Ⅲ-1-1を改変および一部抜粋)

★1 [https://www.med-safe.jp/pdf/report\\_78\\_T001.pdf](https://www.med-safe.jp/pdf/report_78_T001.pdf)

★2 [https://www.med-safe.jp/pdf/report\\_79\\_T001.pdf](https://www.med-safe.jp/pdf/report_79_T001.pdf)